

現時点での、最大の注目ポイントは、米国株価の急落だろう。

先週あたりから、このコラムでも、ダウジョーンズ株価の動きを集中して取り上げている。

今日は、クリスマス(12月25日)なのだが、今年は、とんでもないクリスマスになった市場参加者も多いのだろう。

+++++

添付のダウジョーンズの週足チャート(Weekly Chart)を見て欲しい。

※オリジナルのチャート画像は(<https://www.barchart.com/>)から引用



+++++

ダウジョーンズ株価は、2016年の年初ころを起点にして、サポート・ライン【青の破線】に従って、大きく上昇した。

2016年の年初ころの起点は、おおよそ16,000ドル(ないしは、15,500ドル)。

最高値は、おおよそ27,000ドルを付けている。

起点を、おおよそ16,000ドルとすると、11,000ドル上昇したことになる。

最高値を付けてからは、安値24,000ドルから、高値26,000ドルのゾーンで、大きく上下動を繰り返したことが、この添付チャートから読み取ることができる。

いわゆる「高値持ち合い」を形成した、と言える。

そして、前述のサポート・ライン【青の破線】を割り込んで、最初の「売りシグナル」を
発した、と言える。

+++++

ただし、この最初の「売りシグナル」を発した時点では、ダウジョーンズ株価は、高値圏
で、【緑の破線】で示したボックス相場を形成中だった。

つまり、この時点では、このボックス相場が維持されていた。

言い換えれば、このボックス相場が維持されている間は、大きな「高値持ち合い」が続い
ている状態であった。

このボックス相場【緑の破線】の上限は、おおよそ 27,000 ドル、下限は、おおよそ 23,000
ドルで、その値幅は、約 4000 ドルである。

+++++

そして、先週の 12 月 20 日（木）のニューヨーク市場で、ダウジョーンズ株価は、23,000
ドルを割り込み、このボックス相場【緑の破線】の下限をブレイクして、新たな「売りシ
グナル」を発した。

+++++

ボックス相場のセオリーは、以下の通り。

『ボックス相場を下抜けする場合は、そのボックスの下限から、そのボックスの値幅分、
下落したところがターゲットになる』

だから、上述のセオリーに従えば、ボックス相場の下限 23,000 ドルから、ボックスの値幅
分（約 4000 ドル）下落したところがターゲットとなる。

※添付チャートに、ターゲットを、【緑の破線（両端矢印）】で示した。

+++++

ダウジョーンズ株価が、このボックス相場【緑の破線】を形成する際の形状を見ると、典
型的な「ダブル・トップ」を完成している。

※【ピンクの破線】で、「ダブル・トップ」の形状を表示した。

++++
++++

もちろん、チャート分析は万能ではなく、上述の「売りシグナル」が、必ず正しいとは断定ができない。

チャート分析は嫌いだという方々や、チャート分析は科学的ではないと考える方々からの異論は、当然に噴出することだろう。

しかし、現時点でのチャートの形状を見ると、危機的な状況であり、このボックス相場【緑の破線】を下に抜けたので、大きく急落する可能性があることに、最大限の注意を払うべきだ、と思料する。

好き嫌いの問題ではなく、リスクの可能性があることに注視すべき、と考えるからだ。

つまり、ダウジョーンズが、チャート・ポイント（下値支持）であった 23,000 ドルを割り込んだので、大きく急落する可能性があることを、意識する必要がある、と考える。

いわゆる「買い方」は、一時撤退を視野に入れるべき、ということだ。

++++

ダウジョーンズが、23,000 ドルを割り込む場合は、日本の株価にも大きく影響を与えて、日経平均株価も大きく下落するだろう、と考えていたが、いよいよそれが現実となった、と判断している。

++++

冒頭にも述べたが、今日は、クリスマス当日（12月25日）なのだが、今年は、とんでもないクリスマスになった市場参加者も多いことだろう。

++++

（2018年12月25日東京時間14:20記述）